

三重短大 ○橋本貴美子
鈴木 温子
金蘭短大 松下 知子

1. それでは被服構成上美しさと機能の両面において重要な役割を持つものである。特にゆるみの少ないそでは着用者の腕によくそい，しかも機能的でなければならない。そのため2枚そでやタイトな1枚そでは，腕の形に適合するようまっすぐでなく，上膊部と前膊部に角度をつけて構成されている。しかしその曲げ角度は各式製図法によって異なり，しかもその角度の根拠は明らかでない。腕の形や角度についての研究は文献にも見当たらないので，私達はまずこの点を追求し，美しさと機能の両面から満足し得るそでの構成方法を見いだしたいと考えた。

2. 腕の形については短大生83名を対象に腕を側面から写真撮影し，肩峰点より垂直に下した線に対して腕の曲がり角を計測。次に現在多く用いられている数種の製図法により，一定寸法で製図したものについて肘点における曲がり角度を計測。さらに被検者中より計測結果の平均値に近い人物と，製図上の曲がり角度に近い形態の腕の人物についてそでを製作し，これを人台に着せた場合と，被検者が着用した場合を写真により比較検討した。

3. 写真計測による腕の曲がり角度には非常に個人差があることが分った。実物製作したものを人台に着せた時は製図どおり中心線がまっすぐ垂下するそでも，着用者の腕の形に合わない時は線が曲がることが明らかとなり，また1枚そでより2枚そででは腕の形によく合うことが認められた。